

○第2回 宜野湾市振興計画審議会における意見等について

①第四次宜野湾市総合計画後期基本計画について

No.	審議会／意見用紙	目標等	該当ページ	意見等の概要	市の考え方
1	意見用紙	目標1-1	(31)	【左下写真のコメント】 変更前：新年を初う公民館まつり(宜野湾区) 変更後：世代間の交流を図る公民館まつり(宜野湾区)	自治会活動の写真に変更します。
2	審議会	目標1-1	(32)	SNSの情報発信をどう周知していくの検討していただきたい。	市報やHPだけではなくLINEやフェイスブックでの周知も取り組んでいるところではあるが、新たな周知方法も検討します。
3	審議会	目標1-2	(34),(35)	男女共同参画については、近年大きく考え方が変化してきている。 男性が女性かではなく、多様性を尊重するように男女共同参画の考え方をアップデートすべきではないか。	多様性という言葉はキーワードとしては重要である。 計画だけではなく、市民講座など様々な場面で多様性について、周知していきます。
4	審議会	目標1-2	(34),(35)	前回の条例は、多様性という言葉が含まれていることで反対された経緯がある。総合計画に「多様性」の文言を追加することはできないか。	個別計画の第3次宜野湾市男女共同参画計画～は「どろもプラン～(改訂版)」と整合性を図り、「互いの性に配慮した健康支援・性教育等充実」と変更しております。
5	審議会	目標1-2	(34),(35)	(No.2を受けて) 第3次男女共同参画計画～は「どろもプラン～」の個別計画だけに掲げるのは弱いと感じる。総合計画に組み込んで、アピールしていただきたい。	上記と同様
6	審議会	目標1-2	(34),(35)	男女共同参画については、多様性を認めることが根幹にあると考えているが、その考え方をきちんと理解したうえで整理してほしい。 これから社会を支えていく若者たちから考えさせていく、中学や高校から教育・啓蒙が大切である。 学校教育でも取り入れていくような次につなげる考えを反映してほしい。	子どもたちから男女の区分・序列の意識を植え付けたいことや、セクシャル・マイノリティの尊厳を守ることなどを目的に、2017年度に市立の全小中学校で男女混合名簿を導入いたしました。 人権尊重についての理解を深めることができるよう、学年や年齢に応じた出前講座を行っております。
7	審議会	目標2	(42),(43)	ここ数年、企業、NPO、専門職や様々なセクターが関連する包括的な地域社会を作っていくという流れがあるので、縦割りでなく地域や本人の属性に合わせた社会づくりの方向性や施策を検討してほしい。	現在、市の市民提案型事業においても、新たな地域見守り事業等が実施されていますが、今後、多様な団体が参画する包括的な地域社会の実現が重要性を増すことから、本市におきましてその方策を検討してまいります。
8	審議会	目標2	(42),(43)	市民や自治会だけではなく、市内企業の皆様も社会貢献や地域づくりに興味を持ってのことから、事業として企業と連携していく地域づくりも検討していただきたい。	今後、本市においても多様な団体の地域づくりへの参加や連携を促進できるように、検討してまいります。
9	審議会	目標2-2	(44),(45)	行政内評価において、子育て支援の充実については、市民満足度が心である。認定こども園が増えてきており、待機児童は解消されてきているが、いまだ子育てしづらいという声も多い。 子育て支援のため有給の看護休暇など実施している市内企業等に対し表彰するなど、市民団体(企業)との連携についても総合計画に表現できないか。	企業に対し、ワークライフバランスの普及促進について周知・啓発に努めます。
10	審議会	目標2	(44)	子育て世代の現状として、保育所入所については、兄弟組が別々の保育園に配置される状況がある。送迎や行事などを考えると保護者の負担が大きいため、兄弟組が同じ保育所へ入所できるように仕組みづくりを行ってほしい。	現在、兄弟が同じ保育園へ入所する機会を高めるため、兄弟同時申込みの場合や、申込児童の兄弟が閉じ在園している場合、多子世帯の場合等には、一定程度優先される取り扱いを行っております。
11	意見用紙	目標2-2	(45)	【主な取り組み】 「保育士の処遇改善」は廃止ではなく記載内容の変更となることであるが、どのような記載内容の変更となるのか教えて頂きたい。	国の基準に基づいた処遇改善については、引き続き取り組んでいきます。今後は、研修会などを開催し、保育士の質の向上について重点的に取り組んでいきます。

凡例 : 主な説明箇所

No.	審議会／意見用紙	目標等	該当ページ	意見等の概要	市の考え方
12	審議会	目標2-3	(46)	女性の相談件数の増加に関する課題はあるが、その施策が少ないように感じる。沖縄県や他市においても同様だが、相談員が非正規のために、専門性の確保・維持が非常に難しくなっている。その専門性の確保・維持という観点から計画に記載できることはないか。	現状は市も非正規職員の相談員が多くなっている。どのような取り組みができるか検討していきます。
13	審議会	目標3-1	(59)	目指すまちの姿に記載されている「未来を担う人間力の育成」について、人間力とは抽象的である。一般市民が読んでわかりやすい文言や記載方法を検討していただきたい。	「目指すまちの姿」で人間力がわかる記載になっているため修正せずに掲載します。
14	審議会	目標3-1	(59)	人間力という文言を削除しても特に文章上問題なく通じるので、削除してもよいのではないかと思う。	上記と同様
15	意見用紙	目標3-1	(59)	【未来を担う人材育成】 ○4の赤字部分 公立幼稚園が公立小学校のつなぎ止めの部分について、近年では市内の5歳児は保育所・認定こども園・公立幼稚園と様々な施設で教育を受けている現状があり、公立幼稚園の利用の割合も変化していると感じている。就学前教育施設でのつなぎとめが公立幼稚園という明記は今の現状にはあっていないのではないかと感じるので公立幼稚園が中心になりなどと明記してはどうか。また保幼小連携は同じ教育施設である保育所などの児童福祉施設も意味するものであるから。また現場の関係者の連携への関心の差を埋めるためにも人事異動などで連携の状況が変わることの無い様、子育て支援課と教育委員会のなどの組織的連携を図る必要があると感じる。	ご提案の内容について計画を修正します。
16	審議会	目標3-1	(59)	スクールソーシャルワーカー(SSW)について、配置は重要と考えるが現状は常駐ではない。安心して働ける環境づくりも必要だと思うので、「担い手のサポート(担い手の育成)」などの文言追加や目標指標の設定を検討してほしい。	SSWについては、必要性は認識している。専門性を高めるため、待遇改善(通年雇用等)に努めます。計画への記載についても修正します。
17	意見用紙	目標3-1	(61)	【基本的方向① 具体的施策】 (KPI) 学習支援員配置等による全国学力・学習状況調査(小算/中数)正答率の全国との差と記述がありますが、誤解を招いてしまうと思います。学習支援員の配置においては、現場では大変助かっていますが、トータルとしての結果でありますので、取って置ける学習支援員配置等についての文言は全部省いたほうがよいかと思えます。よって、前回同様、シンプルに全国学力学習状況調査における、全国平均との差に戻したほうがよいかと思えます。	学習支援員配置については、企業版ふるさと納税の活用を見据えた表現となっておりますので、案のとおり記載します。
18	審議会	目標3-2	(63),(64)	ギガスクール構想の部分において、市民が分かりやすい表現にしてほしい。 ・1人1台端末→一人1台「PC」端末 ・③働き方改革「に関する取組」は削除したほうがシンプルでよいと思う。	ご提案の内容について計画を修正します。
19	審議会	目標4-1	(69)	サンゴ礁、サンゴ、植樹活動の支援の追加を検討して頂きたい。 観光客の誘致につなげられたらと考えます。	ご提案の内容について計画を修正します。
20	審議会	目標4-1	(69)	昨年度、アトムホームスタジアム(市立野球場)に大型スクリーンを設置しているの、多種スポーツ大会の分野においても大型スクリーン活用のイベント関係も考えていただきたい。	ご提案の内容について計画を修正します。
21	審議会	目標4-1	(69)	サンゴにおける観光については、他市町村が先行している。他市町村を見てみると、サンゴで観光客らを誘致したが、結果的にサンゴに悪影響を及ぼしている。これから施策を検討していくのであれば、他市町村のように本来転倒ごまるのではなく、持続可能な施策として考えてほしい。経済が主語ではなくサンゴが主語となるような取り組みをお願いしたい。	さんごにおける観光施策が本来転倒ごならぬよう関係団体ともルール作りを行います。

No.	審議会／意見用紙	目標等	該当ページ	意見等の概要	市の考え方
22	審議会	目標4-3	(72),(73)	地域商店街の活性化について、インバウンドの影響はあると思うが、今後、新型コロナウイルス感染症も収束しない中、非接触媒体が増えると考え。キャッシュレス決済などの普及率をあげるなどの目標値設定等は可能か。	来年度においては市税等の納付書をペイペイ等で支払いが可能となるよう進めているところである。地域商店街におけるキャッシュレス決済については各店舗により事情も様々であり、一律に目標値を設定することは見合わせるが、感染症対策並びに地域経済活性化の観点からも、キャッシュレスの推進が図られるよう普及啓発等に取り組みます。
23	審議会	目標5-1	(80),(81)	台風時はFMラジオで台風情報を24時間発信している。防災関係で市と協力していきたいが手法等が分からず難しい。何か市民防災室との連携ができる協議会等できないか。	現在も防災会議などの協議体はあるが、担当部署へも共有し、今後連携がとりやすくなるような仕組みづくり等を検討していきたい。
24	審議会	目標5-1	(80),(81)	市の防災無線かと思うが、受信しづらい地域がある。そのあたりは把握しているか。常時聞き取れる状態を作してほしい。	市は防災無線をアナログ無線からデジタル無線へ変えていく施策を進めていることから、受信がしづらいエリアは少なくなっていくと考えています。
25	審議会	目標5-4	(87),(88)	大学の授業でSDGsの取り組みを行っており、各市町村の課題を挙げていっているが、宜野湾市は安心して水が飲めないなど水質汚染の意見が多い。水質汚染問題に対し市としてはどのように取り組んでいくのか。	市の水道水は、北谷浄水場から受水しております。市が受水する北谷浄水場のPFOS及びPFOA濃度の合計値は、暫定目標値50ng/Lに対し、平均30ng/L程度であり、PFOS等は安全なしべルに低減されている事を確認しております。市としては引き続き北谷浄水場の水道水の安全性が担保されますよう、県企業局はじめ関係機関への働きかけと情報収集に努めます。
26	審議会	目標5-4	(87),(88)	PFOSに関する問題について、市の飲み水はどこからきているかということも整理が必要。市民に不安を与えないような記載を検討していただきたい。	市の水道水は、北谷浄水場から受水しております。有機フッ素化合物PFOS等については、これまで国内での水質基準等が定められておらず、北谷浄水場を管理する県企業局では米国環境保護庁の生涯健康勧告値を参考に水質管理及び浄水管理を行っておりましたが、令和2年4月1日に厚生労働省において、PFOS等を水道水質基準における『水質管理目標設定項目』と位置づけ、暫定目標値として50ng/L以下とされたことから、北谷浄水場を管理する県企業局では、国内の水道水質基準に基づき管理を行っております。市が受水する北谷浄水場のPFOS及びPFOA濃度の合計値は、平均30ng/L程度であり、安全なしべルに低減されていることを確認しております。
27	審議会	目標5-8	(97)	火葬場建設の現状はどうなっているのか。	平成27年度に1市2町2村で火葬場建設に向けて取り組んできたが、結果的には断念した経緯がある。現在は関係自治体との情報交換を行っており、施策としては特段進んでいない現状です。
28	審議会	目標6-1	(98),(99)	基地問題について、騒音関係の苦情は減ってきているのか。	特段減ってきている状況はなく、むしろ伸びてきている。現在もジェット機の騒音等のあった場合は、問い合わせは多数あります。
29	審議会	目標6-2	(101)	①取組方針中、沖縄医療拠点について、医療ツーリズムを文言に追加できるのか。	以前、重粒子関連で医療ツーリズムについては話が挙がっていたが、具体化していない。今後も琉球大学との意見交換等も踏まえながら継続して検討させていきたい。
30	審議会	目標6-2	(103)	琉大病院と海軍病院との連携はあるか。行政は把握しているか。	周辺地域との連携も含めて模索中です。

○第2回 宜野湾市振興計画審議会における意見等について

No.	審議会／意見用紙	目標等	該当ページ	意見等の概要	市の考え方
1	審議会	宜野湾市における人口の現状	(110)	合計特殊出生率の「特殊」とは何か。	15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したものです。
2	意見用紙	総合戦略	(122)	【次世代に誇れる持続発展可能な都市の形成】子ども達からの環境教育という点から環境教育講習会に子ども達の講習会の計画ができれば良いと感じる。他市町村などで行われている買い物ゲームなどからゴミ問題を考えるなど理解しやすい市民環境団体を使った講演会など計画出来ると良いと感じる。	本市においても市内の小学校へ出前講座として、環境教育講習会を開催しており、引き続き実施していきます。
3	審議会	横断的目標①	(123)	地域リーダー育成に関する取組に関して、参加者については毎回同じメンバーとなることも少なくなっている。若い世代や子育て世代、働き世代にも働きかけようとしている。それには企業や大学での教育環境等を含めた連携が必要と考える。	自治会活動の写真に変更します。
4	審議会	横断的目標②	(123)	Society5.0)について、みまもり自販機だけでは少し寂しい。もう少し中身があった方が良いと感じる。	現在、市で取り組んでいく設定となっており、まずはこの部分から取り組んでいきます。
5	審議会	横断的目標①	(123)	SDGSにおいて、「ゴール17」が一番重要だと考えるので、地域づくりについてはもっと重要視してもよい部分だと思ふ。また、目標としても多様な人々が暮らしているの、出産や子育てにこだわりすぎておかない。宜野湾市で暮らしてみたいという気持ちを持続可能な社会が実現されていくと思う。リーダーを作ってもそれだけで終わってしまうこともあるので、一つ一つの小さな団体へ経費をかけるのも悪くはないが、セクターなどを立ち上げて、住民がどう参加できるか、話し合いができる場づくりを検討してみてもどうか。	企業などとも連携した仕組みづくり等、今後検討していきます。
6	審議会	横断的目標②	(123)	Society5.0の項目については「データサイエンス教育」という文言も含めた方が良く考える。	「データサイエンス教育」について、小・中学校で取り組むには調査研究する必要があります。
7	意見用紙	人口ビジョン	(145)	【外国人人口の推移】日本の人口が減少傾向にあり沖縄県、宜野湾市も例外ではなく海外からの労働力に頼る時代に今後増えていく事も予想されるなかで保育、教育でも外国にルーツのある園児、生徒、保護者も今後増えたと予想される。外国にルーツを持つ子ども、保護者を受け入れる際の国の文化や宗教の違いも沢山あるなかで「これは日本だから日本のルールに従ってもらおう」ではなく、課題はたくさんあると思うが日本の文化に沿った保育、教育をしていくのか、自分の国の文化も取り入れながら保育、教育をしてほしいのかを子ども、保護者が選べる準備を、保育、教育する側もこれから求められてくると思うので外国人の方も子育てしやすい多様性のある環境づくりを市としても取り組んで行く必要があると思ふ。	外国人の方も子育てしやすい環境づくりについて、今後検討していきます。